

学校法人エリザベト音楽大学

2018(平成30)年度

2018(平成30)年4月1日から2019(平成31)年3月31日まで

事業報告書

1. 法人の概要

①建学の精神・教育理念・行動標語

【建学の精神】

大学の究極目的は、人間社会全体の形成であり、従って、個人の完成である。芸術は、人格の開発と表現のためにも、神との一致の道を切り開く人間相互の一致のための手段としても重要であることから、本大学は、人格完成を芸術、特に音楽の観点から強調するのである。

それゆえ、深く音楽芸術に関する理論及び技能を教授研究するとともに、広く知識を授け、良識ある音楽家を育成することを旨とする。

1. 本大学は、カトリシズムの精神に基づいて創立され、かつそれを指導原理としている。
2. 本大学は、カトリック・イエズス会の教育方針に従い、一般教育科目及び外国語科目にも力を注いでいる。
3. 本大学は、すべての人々は兄弟・姉妹であるという精神から、家族的雰囲気をもととする学生1人1人とのきずなを教育の礎としている。
4. 本大学は、一般音楽の他に、グレゴリアン・チャント、ポリフォニー及び現代宗教音楽等の教授・研究において他にみない特色を有している。
5. 本大学は、国際的な友好関係のもとに維持されており、日本古来の文化と西欧文明との融合をその究極の使命としている。
6. 本大学は、音楽芸術をとおして、神秘的観想の精神に達することを究極の教育理想としている。

【教育理念】

《 教養・実力・慈愛のある音楽家の育成 》

カトリシズム（普遍性）の精神に基づき、
幅広い教養・専門教育をとおして、
自分を高め、「他者のために生きる」人材を養成する。

音楽芸術および音楽教育に関する
理論、技能および実践の教授研究により、
真に芸術を愛し「美」の追求に真摯な人材を養成する。

平和を愛し、
地域社会および国際社会、とりわけアジア地域に
貢献する人材を養成する。

【行動標語】

音楽をとおして 私が変わり 世界を良くする人になる

②学校法人の沿革

年 月 日	沿 革
1947(昭和22)年9月	広島音楽教室開設(現エリザベト音楽大学付属音楽園)
1948(昭和23)年4月	県公認広島音楽学校開設
1950(昭和25)年1月	財団法人広島音楽学校に名称組織変更
1951(昭和26)年3月	学校法人広島芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年3月	学校法人エリザベト芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年4月	エリザベト音楽短期大学(2年制)開設
1954(昭和29)年4月	宗教音楽専攻科(1年制)設置
1959(昭和34)年4月	エリザベト短期大学と改称(音楽科3年制、宗教科2年制)
1961(昭和36)年12月	ローマ教皇庁立宗教音楽院の姉妹校となる(BMS宗教音楽士の授与認可)
1963(昭和38)年4月	学校法人エリザベト音楽大学に改称、4年制のエリザベト音楽大学昇格開設、3年制短期大学と宗教科廃止
1967(昭和42)年4月	音楽学部音楽学科宗教音楽専修を宗教音楽学科として増設 (音楽学科・宗教音楽学科の2学科編制)
1976(昭和51)年4月	音楽学部声楽学科、器楽学科増設 (音楽学科・宗教音楽学科を加えて4学科編制)
1980(昭和55)年4月	音楽専攻科(1年制)開設
1990(平成2)年3月	音楽専攻科廃止
1990(平成2)年4月	大学院音楽研究科修士課程設置
1993(平成5)年4月	大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置
2001(平成13)年4月	音楽学部を改組、音楽文化学科、演奏学科開設
2003(平成15)年4月	音楽文化学科幼児音楽教育専修開設(幼稚園教職免許課程設置)
2006(平成18)年3月	音楽学科、宗教音楽学科、声楽学科、器楽学科の4学科を廃止
2011(平成23)年3月	日本高等教育評価機構から平成22年度大学機関別認証評価の認定
2018(平成30)年12月	新3号館竣工および既存施設(セシリアホール・1号館・本館・333教室等)改修完了
2018(平成30)年3月	日本高等教育評価機構から平成30年度大学機関別認証評価の認定
2018(平成30)年度	創立70周年記念事業コンサートシリーズ実施
2018(平成30)年8月	アセアック(ASEACCU:東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議)の実施

③設置学校の学部学科等学生定員・在籍学生数

当法人の設置する大学の学部学科等、学生数の状況は次のとおりです。

エリザベト音楽大学

音楽学部 (()内は入学定員/収容定員)

音楽文化学科 (20人/80人)
 演奏学科 (60人/240人)
 合計 (80人/320人)

大学院音楽研究科 (()内は入学定員/収容定員)

修士課程

音楽学専攻 (3人/6人)
 宗教音楽学専攻 (2人/4人)
 声楽専攻 (3人/6人)
 器楽専攻 (12人/24人)
 合計 (20人/40人)

博士後期課程

音楽専攻 (3人/9人)

2018年5月1日現在における在籍学生数は、次のとおりです。

音楽学部

(単位:人)

大学院音楽研究科

(単位:人)

	1年	2年	3年	4年	計
音楽文化学科	7	10	14	19	50
演奏学科	48	46	41	45	180
計	55	56	55	64	230

	1年	2年	3年	計
修士課程	22	31		53
博士後期課程	2	0	2	4
計	24	31	2	57

④教職員

2018年5月1日現在における教職員の状況は、次のとおりです。

学長	教授	准教授	専任講師	専任教員計	兼任講師	専任職員	兼任職員
1	10	9	12	32	103	22	5

平均年齢 専任教員: 47.8歳 専任職員: 50.2歳

⑤役員・評議員

2018年5月31日現在における役員・評議員の状況は、次のとおりです。

種別	寄附行為の規定(選任条項)	定員	現員	氏名(敬称略)	
理事	第5条 第12条	(1)学長	1	1	川野祐二
		(2)評議員	2~3	3	中村英昭、山城宏樹、作道宗三
		(3)学識経験者	1~2	1	梶山義夫
		(4)イエズス会日本 管区長の推薦者	1	1	ヴィタリ、ドメニコ
合計		5~7	6		
監事	第5条、第13条		2~3	2	大林泰人、三好彰
		合計	2~3	2	
評議員	第17条 第2項 第21条	(1)法人の職員	2~3	3	山城宏樹、馬場有里子、柴田美穂
		(2)学校卒業生	2~3	2	永岡敏彦、森佳代子
		(3)理事互選	5~7	5	川野祐二、中村英昭、作道宗三、梶山義夫、ヴィタリ、ドメニコ
		(4)学識経験者	6~7	6	木阪信子、三島豊、市川太一、祇山登、伴谷晃二、村上健
合計		15~20	16		

2. 事業の概要

(1) 大学経営の取組み

① 建学の精神・教育理念の実現のために

本学の設立母体であるイエズス会の教育について、4月のゴーセンス記念講演において、「イエズス会教育：信仰、宗教と宗教対話」のテーマにより専任教職員全員および非常勤教職員の希望者が学びました。また、9月には、設立以来本学がその理論と実践を重視しているグレゴリオ聖歌に関して、「グレゴリオ聖歌研究の動向」と題した講演を専任教員が学びました。

創立70周年の記念事業の一つに位置付けたアセアック（ASEACCU：東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議、テーマ：カトリック大学と平和教育）を8月21日から26日の間に開催しました。海外のカトリック大学から約100人の教職員と学生、国内のカトリック大学から約100人の教職員と学生が参加し、双方が平和教育に関する実りの多い学習と体験を行いました。共通言語は英語という本学にとってはハードルの高い事業でありましたが、教職員と学生は積極的に参加あるいは準備等に関わり、カトリック大学に所属する意識を高めることができました。

2018年度は4月と2019年2月の2回、学生による海外のイエズス会学校での演奏会を実施しました。4月はタイ北部のミャンマー・ラオスに隣接するチェンライに2017年に設立されたザビエル・ラーニング・コミュニティにおいて、2月は東ティモール首都ディリ郊外リキサ県にある聖イグナチオ学院（中学高等学校）（2013年設立）および聖ジョアン・デ・ブリトー教育大学（2016年設立）において行いました。いずれもコンサートホールではなく、特設のステージでの演奏でした。聴衆は初めてクラシック音楽を生演奏で聴く人々ばかりで、彼らに大きな感動を与えることができました。これらの経験は、学生および引率教職員により、大学の教職員および学生達に研修会等の機会を利用して分かち合うことができました。

② 学生数確保・入学定員維持への取組み

定員の確保のために、後述のとおり毎年学生募集に関する新企画も含めて様々なことを実施していますが、結果として定員を大幅に下回りました。次年度に向けた計画として、中四国九州地方で開催している進学ガイダンス会場を、2018年度の6か所から2019年度は14か所と2倍以上に増やすことにし、その準備を開始しました。

③ 中長期計画に沿った将来計画の策定

2018年度中に、施設・設備および財政に関する中長期計画の大幅な見直しを行う必要はありませんでしたが、それぞれ現時点で必要な修正計画を立て、実行に移しました。7月の大規模土砂災害に見舞われた西条キャンパスについては、地元自治体とともに修復・復旧工事の計画を立てることと並行して、役割・在り方についても検討を継続させています。

学生寮については、寮費減額により、学生を含む学内外の多くの方々に注目され、結果と

して次年度の入寮者数増加につながりました。

④国際交流の推進

海外の新規の交流協定校については、アセアック時に交流協定（MOU）を締結したアジア地域の複数の大学および交流協定を新たに結ぶための交渉を行っているイタリアとドイツの大学があります。留学を希望する学生の関心が高いイタリアとドイツの大学については、2019年度中に交流協定を締結する予定です。

前述のとおりアセアックは成功裏に終わり、会場校の役割を十分に果たすことができました。

(2) 教学について

①教学改革について

2018年度事業計画では、教育課程全体について、時代および学生のニーズに合わせたものにするべく、検討を行いました。また、和太鼓アンサンブルや演奏学科共通特殊講義（室内楽）、特別講義演習など選択履修の幅を広げ、より多くの学生が積極的に取組めるよう配慮しました。

[音楽文化学科]

音楽文化専修では、研究演習（3年）と卒業演習（4年生）を対象にルーブリック評価（評価項目とレベルで学習到達度を示したもの）を用いて、学生に合わせた対応をするため、引き続き内容の検討を行いました。音楽コミュニケーションデザイン専修、幼児音楽教育専修と連携を深め、2019年度から新2年生を対象とした「基礎演習」（選択）科目を設置することとしました。少人数体制で、研究に必要となる基礎的な力の向上を図りました。

幼児音楽教育専修では「動きと音楽」をテーマとして、幼児期の音楽教育について多角的視点から学生を指導しました。学生が主体となって、主催者側のニーズに沿ったプログラムを考案し、幼児・親子を対象とした社会貢献活動として音楽を楽しむ場を提供しました。とりわけ幼児音楽教育専修の学生全員が履修する幼児音楽教育特殊研究Ⅰ・Ⅱの中で、多様な音楽体験をすることができるようなカリキュラムを編成することができ、また、学びの発表の場を設けることで、学生自身が幼児教育に必要な音楽性や協働性を身に付けていくことができました。

音楽コミュニケーションデザイン専修では社会貢献連携事業を継続したほか、広島美術館など、各学生ユニットが広島市内の学外音楽イベントに積極的に関わり、学びを還元することをとおして、本学のブランディングに寄与する活動を促進しました。

また、広島県・広島市・東広島市やNPO法人との連携事業においても継続して音楽イベント制作、舞台事業の制作協力、学生のアウトリーチ活動、各種催しのコンサート企画協力などを行いました。

[演奏学科]

70周年を記念した本学主催の演奏会では年間をとおして多くの教員が出演し、旧師の作品や本学にゆかりの深い作品をとおして各教員の研究を深める良い機会となり、また、その演奏を聴いた学生との関係にも良い変化をもたらしました。オーケストラや合唱での学生の演奏機会も多かったことから、授業や特別練習による指導強化を図りました。

8月と12月には演奏をとおした地域貢献として、子ども向けの演奏会を学生自ら企画し演奏する試みを実施し好評を博すとともに、今後の演奏実習のひとつの可能性を示すことができました。

くらしき作陽大学との協定により創設されたエスポワール新人演奏会が4月に行われ、本学卒業生4名が出演し、その演奏レベルの高さが評価されました。また、シュトゥットガルト音楽大学との交換留学制度により1名の学生が9月より一年間の予定で現地での充実した学修を始め、新たな履修のかたちが示されました。

現状に合ったカリキュラムへの改革については様々な意見交換が学科内でなされましたが、具体化に向けて引き続き検討を進める予定です。

②学生生活支援

より充実した学生支援のため、学生生活センター室長を中心に、ホームルーム担任、学生相談室や保健室の担当者、学生生活事務担当者間で効果的に連携し、必要に応じてカウンセラー（学生相談室）、看護師（保健室）による支援も行い、学生の悩みや様々な相談へ対応しています。また、学生生活委員会を定期的に開催し、各学科・専修専攻での気付きを出し合い、連絡事項を持ち帰り、改善に努めています。主な活動として、学生生活で指導や啓発が必要な内容について合同オリエンテーションを行い、大学祭や新入生歓迎会、クリスマスパーティ、募金活動など学生会主催行事や活動の支援を行うことで、学生の自立を図っています。

教職員には、授業の欠席状況等で変化の見られる学生については早期に状況を把握し、必要に応じて迅速かつ丁寧に対応し、学生が抱える諸問題の解決につなげています。

学生への連絡は、学生用ポータルサイト「イーチ」の活用がほぼ定着してきており、学生の自発的な行動を促すことに効果を上げています。

また、学力・演奏等の支援については、学習支援アシスタントによる個別指導を行う等により、改善を図っています。

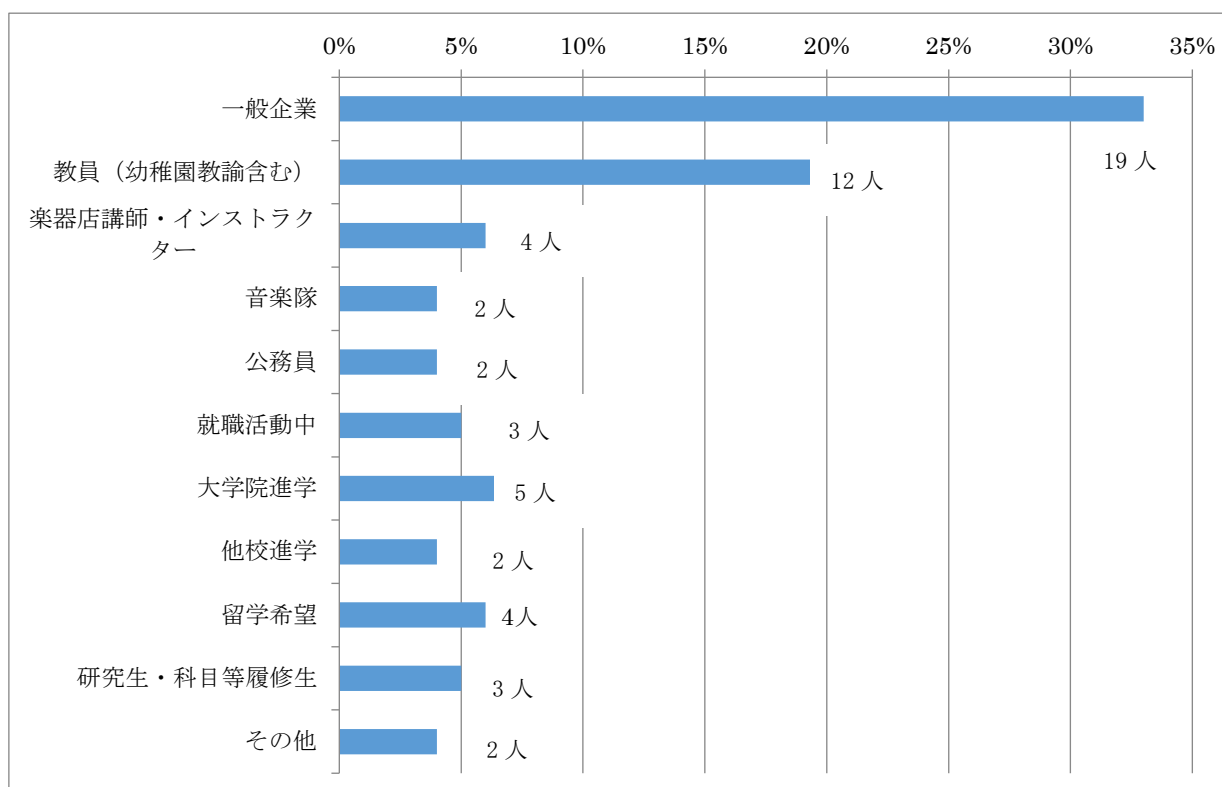
経済的支援については、奨学金制度利用と現状のバランスを注視し、奨学金受給学生がより充実した学生生活を送れるよう、充実・改善を検討しました。受給学生については、前年度に引き続き面談・個別指導を実施し、健全な学生生活を送っているか把握し、意識の向上を促しました。さらに、貸与型奨学金（日本学生支援機構奨学金）受給学生を中心に進路指導を強化しました。

[就職・進学サポートについて]

キャリアサポート委員会、キャリア支援室、教養・教職主事、学生生活センター室長、学

生生活担当職員間で、相互の連携を強化しました。また、進路オリエンテーション、個別面談など、学生一人ひとりに向き合った就職・進路サポートを行いました。

2018年度の進路状況の内訳は以下のとおりです。



就職希望者 42 人に対する就職内定者数は 39 人で就職内定率は 92.9%です。(2019 年 5 月 1 日現在)

全国的には、97.6%の内定率(文部科学省 2019 年 5 月 17 日発表)が示されており、本学もほぼ全国並みの実績を出すことができました。

大学院進学、留学、音楽関係の就職など、音楽大学の特徴を活かした進路希望者には、担当教員の指導により進路実現への道を切り拓いています。

また、教職希望者については、経験豊富な教員の個別指導により、高等学校、中学校、小学校、特別支援学校と各学校種で教員採用試験現役合格者を出しました。幼稚園教諭も希望者は 100%幼稚園教諭として就職しました。

以上のように、各委員会や担当者間で連携をすることで、学生の希望に沿った進路支援を行い、効果を上げています。

③国際交流について

本年度も様々な国際交流のプログラム活動を実施しました。

海外交流協定校に関わる活動

月	交流協定校	国	内容
4	チュラロンコン大学	タイ	同大博士後期課程学生と本学学部および修士課程学生がチュラロンコン大学カルチャーホールで交流演奏
6	四川音楽学院	中国	本学にて留学生入試実施

8	サント・トマス カトリック大学	インドネシア	交流協定締結
8	ウィディヤ・マンディラ カトリック大学	インドネシア	交流協定締結
11	サント・トマス大学	フィリピン	本学セシリアホールにて交流コンサート。 ラウル・スニコ前音楽学部長、サント・トマス教員と本学教員および修了生が出演

その他、次の活動を実施しました。

4月、タイのザビエル・ラーニング・コミュニティ（チェンライ）で交流コンサートを行いました。川野祐二学長、フランシスコ・アント専任講師（イエズス会）、教員2名、本学学部生および修士課程の5名が訪問し、ザビエル・ラーニング・コミュニティの教職員、学生はもとより、現地の方々とも交流を深めることができました。

8月、第26回東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議（ASEACCU）が、エリザベト音楽大学にて開催され、「カトリック大学と平和教育」“Catholic Education and Peace Initiatives”をテーマとし、8カ国、51大学から約205名の参加者を迎えました。同学生会議には学生2名が参加しました。本学のみならず、日本カトリック大学連盟加盟大学が運営に携わり、上智大学、南山大学、清泉女子大学、白百合女子大学、聖心女子大学から構成される実行委員会の協力体制のもと、本総会・学生会議が実現しました。

2月、東ティモールのリキサ県ウルメラ村にある、聖イグナチオ学院（中学高等学校）聖ジョアン・デ・ブリトー教育大学で交流コンサートが開催されました。本学からは、川野祐二学長、フランシスコ・アント専任講師と職員1名、学部生6名が訪問しました。

④演奏活動

2018年度をとおして、創立70周年記念コンサートシリーズとして、本学にゆかりの作曲者の作品の演奏、また各演奏会では多数の共演者を迎えた演奏会を開催しました。

コンサートシリーズとしても恒例の4月27日「器楽の夕べ」では、新任教員紹介を兼ね室内楽中心の演奏会を開催しました。

8月1日には、サマーヴォーカルコンサートとして、日本産業退職者協会広島支部との共催により、本学教員を中心に、女声合唱、混声合唱の演奏会を開催しました。

10月27日「第77回定期演奏会」では、指揮に十束尚宏氏を、ヴァイオリン伴奏に交流協定校であるブリュッセル王立音楽院のフィリップ・グラファン教授を迎え、国際的な音楽交流を行うことができました。

11月22日創立70周年記念ミサに続き、本学教員・学生による室内楽を、記念演奏会としてセシリアホールで開催しました。

12月12日「チャリティークリスマスコンサート」では、ホセ・テホン元学長作曲のオラトリオ《ロヨラの聖イグナチオ》を演奏し、その収益金は東ティモールの聖イグナチオ学院基金に寄附を行いました。

3月23日開催の「スプリングフェスティバル ザ・シンフォニック・エンターテインメント」は、創立70周年コンサートシリーズの締めくくりとして、ウルトラシリーズの作曲

者であり本短期大学第1期生の冬木透氏を迎えて、交響詩『ウルトラセブン』他を演奏しました。会場には沢山の同窓生を迎え、本学の70年の歴史の重みを感じることできた演奏会となりました。その他、優秀な卒業生や修了生を紹介する場として、大学院新人演奏会（9月と3月）と学部卒業演奏会を開催しました。

各演奏会の出演者等の詳細は次のとおりです。

2018年度エリザベト音楽大学コンサートスケジュール

日程	演奏会名・行事名・会場・出演者	備考
4/27(金)	器楽の夕べ（セシリアホール） フルート:万代恵子、ギター:上垣内 寿光 ピアノ:喜多宏丞、山城育子、柴田美穂 ヴァイオリン:甲斐摩耶 クラリネット:赤坂達三 ヴィブラフォン:小川裕雅	コンサートシリーズ①
6/28(木)	鈴木俊哉リコーダーレクチャーコンサート（ザビエルホール） リコーダー、講演:鈴木俊哉 チェンバロ:福原之織	コンサートシリーズ②
8/1(水)	サマーヴォーカルコンサート（セシリアホール） 声楽:林裕美子、羽山弘子、折河宏治、小林良子 エリザベト音楽大学女声合唱団・混声合唱団 指揮:寺沢希 パイプオルガン:福原之織 ピアノ:久保千尋	コンサートシリーズ③
9/21(金)	秋季大学院新人演奏会(セシリアホール)	
10/27(土)	第77回定期演奏会（セシリアホール） ヴァイオリン:フィリップ・グラフアン(ブリュッセル王立音楽院教授) ピアノ:廣川由香子 指揮:十束 尚宏 演奏:エリザベト音楽大学交響楽団	コンサートシリーズ④
11/10(土)	マーティン・ヒューズ客員教授ピアノリサイタル（ザビエルホール） ピアノ:マーティン・ヒューズ(客員教授)	コンサートシリーズ⑤
11/22(木)	創立70周年記念演奏会(セシリアホール) ピアノ:山城育子、柴田美穂、垣内敦、喜多宏丞、志鷹美紗 トランペット:山城宏樹 ヴァイオリン:甲斐摩耶、青山朋永 ヴィオラ:藤井雅枝 チェロ:森純子 コントラバス:徳原正法 ソプラノ:林裕美子、桂政子、羽山弘子、小林良子 メゾソプラノ:藤井美雪 テノール:下岡輝永 バリトン・合唱指導:折河宏治 エリザベト音楽大学金管アンサンブル エリザベト音楽大学合唱団	コンサートシリーズ⑥
12/12(水)	チャリティークリスマスコンサート(セシリアホール) 指揮:井田勝大 演奏:エリザベト音楽大学合唱団・交響楽団他	コンサートシリーズ⑦
3/6(水)	春季大学院新人演奏会(セシリアホール)	

3/10(日)	卒業研究発表・演奏会 音楽文化学科(ザビエルホール) 卒業演奏会 演奏学科(セシリアホール)	
3/23(土)	スプリングフェスティバル ザ・シンフォニック・エンターテインメント(セシリアホール) 指揮:井田勝大 演奏:エリザベト音楽大学交響楽団	コンサートシリーズ⑧

⑤学生募集活動および広報活動について

[学生募集について]

鮮度の高い情報収集に向け、さまざまなチャンネルから軽微な情報でも集めることができるよう意識を高めました。特に教員からの情報はプロスペクトに直結するものが多く、出前授業などとおした情報収集件数は常に意識しました。2108 年度の出前授業実施件数は 41 件となり、前々年の 24 件、前年の 32 件を上回る件数でした。また、高校訪問や業者ガイダンスによる高校生へのアクセス件数も前年から増加し、積極的な訪問活動が展開できたと感じています。より効率的・効果的なアプローチを工夫するよう、次年度は一層注力していきます。

2018 年度 延べ高校訪問件数 270 件(257) 業者ガイダンス 37 件(23)※()内は前年度数値

一方で、出願者・入学者については、いずれも減少傾向に歯止めがかからず、苦戦を強いられました。エリア別に見ると、九州や四国からの出願者が減ったのに対し、ここ数年苦戦していた山口県からの出願者数は増加しました。(絶対数が少ないため、1~2 名の増減でも割合的に大きくなるためどのエリアにおいても出願数増加にますますの注力が必要と感じます。)

2018 年度(2019 年度入学学年) 出願者数

広島県 40 名(46) 山口県 13 名(4) 九州 6 名(9) 四国 1 名(4) ※()内は前年度数値

次年度は県外での進学ガイダンスについてより充実を図っていきます。また地元広島からの出願者増加に向け、中学校・高等学校関係者や指導者サークル、吹奏楽連盟などと、より深く関わっていく中で情報収集に努めます。同時に、コンペティターの状況も探りながら、本学の価値伝達に一層注力していきます。

大学で実施する企画として、オープンキャンパス(6月、7月、8月)、学内公開・授業公開(10月)、セシリアホール演奏体験(12月)、スプリングフェスティバル(3月)といった行事を予定どおり実施しました。2015 年度より始めたオープンキャンパスのオプションメニュー(午前中、夕方に組み込む)も少しずつ形や企画名を変化させながら、来場者の満足度向上を図ってきました。今後も来場者のニーズを計りながら、大学の価値伝達につながる有効な企画にしていきます。スプリングフェスティバルについては、3月下旬に中学校や高等学校の音楽系クラブの演奏会シーズンと重なることで動員への影響が懸念されますが、企画内容やターゲットを勘案し的確な PR を心がけていきます。

2018 年度の出願件数は 65、入学者 53 となり、微減傾向が続いています。特効薬的な手法や企画はありませんが、大学の魅力を効果的に伝えるために、ガイダンスの回数増加や、出前授業による本学教員への接続に、更に注力していきます。

〔広報活動について〕

大学案内や各種企画のパンフレットなど、高校生や高等学校の教諭、レスナーなどのステークホルダーに読まれるツールは、読み手の目線に立って制作していくことに留意しました。「読みやすさ・親しみやすさ」を意識しながら、一方で大学のステータスや格調などを的確に伝えることができるよう、更に工夫を凝らして制作に臨みました。また、大学ホームページや各種 SNS を利用した情報発信については、更新頻度を少しでも上げるよう心がけました。ただし、情報掲載のタイミングが遅くなるなど改善すべき点もあるので、いかに日常業務の中に落とし込んでいくかを考え、企画メンバーのミーティングを定例化し確認・チェック体制を強化しました。

外部団体、レスナーサークル等との良好な関係継続にも気を付け、更にそういった外部団体からさまざまな情報が収集できるようコミュニケーションを心がけました。今後ますますの関係深化に努めていきます。また、シャレオ大学生コンサートや市役所ロビーコンサート、カワイ広島でのコンサートなど、本学と外部団体とが協力して各種イベントを実施し、円滑な運営をサポートしました。

今後も大学の地域社会貢献と、学生の演奏機会の充実とを、バランスよく効果的に実施できるよう、協力していきます。

⑥教職員研修および教職員評価について

SD の義務化を受けて、昨年度策定した SD 実施の方針と計画に基づいて、教職員を対象に研修の機会を設けました。

学内では、4月のゴーセンス記念講演では、本学専任講師でイエズス会員フランシスコ・アント専任講師により「イエズス会教育：信仰、宗教と宗教対話」のテーマで専任教職員全員と希望する非常勤教職員が本学の設立母体であるイエズス会の教育について学びました。

また、9月の教職員研修会においては、専任教職員全員が本法人の下崎邦明監事から「学びの改革—授業はこう変わる—」という演題による講演を、分科会では、専任教員において、設立以来本学がその理論と実践を重視しているグレゴリオ聖歌に関して、佐々木悠専任講師から「グレゴリオ聖歌研究の動向」と題した講演を聞きました。

その他、各担当部に関する学外の研修にも積極的に参加するなど教職員一人ひとりの能力を開発するとともに教職協働を進めました。

自己評価・FD 運営委員会では、前年度末（2018年3月）に大学機関別認証評価の結果、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合しているとの認定を受けたことから、2018年度については2019年度に向けての準備期間と位置づけ、委員長が4月に行われた日本高等教育評価機構主催の評価セミナーに出席し、認証評価の新たなサイクルにおける注意点について情報収集を行いました。なお、FD 活動の一環として行っている授業相互参観については、前後期にそれぞれ約1ヶ月の期間を設け、教職員による相互参観を行いました。

教職員評価制度は過年度の試行を経て、まだ、細部における理解が深められていない点もあり、引き続き、試行的な実施となりました。

(3) 管理について

① 土地・施設設備の概要

本学の現有土地・施設設備の状況は以下のとおりです。

建物（単位：㎡）

			新築年月日 (登記簿記載日)	教室	演習室 (レッスン 室)	実習室 (自習室・ 院生研究 室含む)	研究室	図書室	管理用	寄宿舍	その他	合計
幟町学舎	旧神父館	鉄筋コンクリート 造陸屋根銅板葺4 階建	1979/7/10 (2015/2/17)	53	14	33	17	0	291			408
	1号館	階建	1979/7/10	810	261	167	21		1,370			2,629
	本館	鉄筋コンクリート 造銅板葺5階建	1982/8/31	188	59		148		845			1,241
	2号館	鉄骨鉄筋コンク リート造陸屋根・ ステンレス銅板葺 9階建	1996/3/31	659	250	200	293	129	2,620			4,150
	3号館	鉄筋コンクリート 造陸屋根7階建	2016/8/31 (2017/3/27)	291	106	62	81	266	1,028			1,834
	4号館		1989/8/31	276	18	395	0	188	762			1,639
小	計			2,276	709	858	559	583	6,916	0	0	11,901
西条学舎	1号館	鉄筋コンクリート 造ステンレス銅 板・スレート葺2階 建	1987/7/24	729		0			670			1,399
	2号館	鉄骨造亜鉛メッキ 銅板葺平屋建	1964/12/31								243	243
	3号館	鉄筋コンクリート 造スレート葺平屋 建	1987/7/24		70				55			125
	4号館	木造瓦葺平屋建	1965/4/13								68	68
	5号館	鉄筋コンクリート 造スレート葺平屋 建	1987/7/24	48					24			72
小	計			777	70	0	0	0	749	0	311	1,907
学生寮(橋本町)		鉄骨鉄筋コンク リート鉄筋コンク リート造ルーフィ ング葺9階建	1985/1/30			0				2,431		2,431
総合計				3,053	779	858	559	583	7,665	2,431	311	16,239

* 使用中の建物は、耐震性を満たしている。(西条学舎 2号館、4号館は現在使用していない建物)

土地（単位：㎡）

	校舎等	運動場	その他	寄宿舍	合計	備考
幟町学舎	4,890				4,890	うち借地 872
西条学舎	27,594	8,279			35,873	
学生寮				637	637	
合計	32,484	8,279	0	637	41,400	

② 施設設備の改修等

今年度は、昨年度に引き続き空調設備やエレベータ設備の修繕など施設設備の更新・改修が中心となりました。女子学生寮セシリアホームについては給水関係の修理を行いました。また、アセアック（ASEACCU：東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議）開催のための無線 LAN の設置や学内セキュリティ対策としてネット環境のためサーバーの更新を行いました。経年変化による施設設備の修繕・更新が中心となりましたがソフト面・ハード面の両面から、早急な対応に心掛け、快適な設備環境での教育・研究が行えるよう努めました。

2018年度に行った主な更新・改修工事関係は次のとおりです。

月	内 容
7月	4号館空調設備更新工事
7月	学内無線LAN設置
9月	1、2号館エレベータ修繕工事
9月	2号館給水式冷凍機更新工事
10月	学生寮無線LAN用機器更新工事
11月	防犯カメラシステム入れ替え工事
11月	練習室予約・インターネットプロキシサーバー関係サーバー等更新
1月	1号館、本館空調設備更新工事
1月	学生寮受水槽・給水設備等修繕工事

③付属音楽園

付属事業である付属音楽園では、音楽園と大学教育の連携を深めるさまざまな取組みを行うとともに園生募集のための活動にも力を入れました。

エクステンションセンターにおいても、年度計画にある講座およびレッスン指導の実施のみならず、国内外からの実力のある指導者の特別レッスン等が生まれ、在学生および卒業生等学外者に対しても充実したプログラムが実施されました。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況

有形固定資産は、学舎の空調設備更新工事等を実施しましたが減価償却の範囲にとどまり、前年度末比79百万円減少して、3,278百万円となりました。

特定資産は、第2号基本金引当特定資産の200百万円の増加に加え、減価償却引当特定資産が増加したことから、前年度末比462百万円増加して9,945百万円となりました。

その他の固定資産は、有価証券（外貨）の増加を主因として170百万円増加して、569百万円となりました。

流動資産は、現預金が38百万円、未収入金が39百万円それぞれ増加したものの、有価証券278百万円の減少を主因として、前年度末比201百万円減少して、860百万円となりました。

資産の部合計は前年度末比、352百万円増加して、14,652百万円となりました。

負債の部は、退職給与引当金24百万円の減少や前受金7百万円の減少などにより、26百万円減少して、371百万円となりました。

基本金は、第1号基本金への組入れ47百万円や第2号基本金の組入れ200百万円により247百万円増加して、12,679百万円となりました。

繰越収支差額が131百万円増加して1,602百万円となり、基本金と合計した純資産額は378百万円増加の14,281百万円となりました。

財務基盤の充実化が図れました。

②収支計算書の状況

ア) 事業活動収支計算書

当年度の教育活動収入は、予算を 86 百万円上回り 680 百万円となりました。前年度比、22 百万円の増収となっています。

収入の主な内訳は、学納金が予算を 30 百万円上回り 462 百万円、経常費等補助金も予算を 29 百万円上回り 101 百万円、雑収入も予算を上回る 65 百万円となりました。

当年度教育活動支出は、予算を 17 百万円下回り 967 百万円となりました。前年度比、12 百万円の増加となっています。支出の主な内訳は、人件費が予算を下回り 510 百万円、教育研究経費が予算を下回り 365 百万円、管理経費が予算を上回り 92 百万円となりました。

教育活動収支差額は、予算を 103 百万円上回りマイナス 286 百万円となりました。

教育活動外収入は、予算を上回り 504 百万円となりました。前年度比、7 百万円の増収となっています。

教育活動外収支差額は、予算を 19 百万円上回り 504 百万円となりました。

特別収入は、予算を下回り 237 百万円、前年度比、88 百万円の増収となっています。

特別支出は、ほぼ予算どおりの 77 百万円となりました。前年度比、50 百万円の増加となっています。

特別収支差額は、予算を下回り 160 百万円となりました。

基本金組入前当年度収支差額は、予算を 102 百万円上回り 378 百万円となりました。

基本金組入後の当年度収支差額は、131 百万円となり、前年度繰越収支差額 1,471 百万円に加算し、翌年度繰越収支差額は、1,602 百万円となりました。

純資産の増加につながっています。

イ) 資金収支計算書

当年度の施設関係支出は、学舎の空調設備更新工事等で 36 百万円となりました。

設備関係支出は、教育研究用機器備品の充実などにより 27 百万円となりました。

ウ) 活動区分資金収支計算書

教育活動による資金収支差額は、マイナス 216 百万円となりました。施設整備等活動による

資金収支差額は、マイナス 564 百万円となりました。その他の活動による資金収支差額は、プラス 819 百万円となりました。これらにより、当年度支払資金は 38 百万円増加して、前年度繰越支払資金 123 百万円に加算して、翌年度繰越支払資金は 161 百万円となりました。

(2) 経年比較

①貸借対照表

(単位：千円)

	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末	2018年度末
固定資産	11,589,456	12,364,432	13,158,719	13,238,443	13,791,584

流動資産	1,785,771	1,286,757	841,071	1,061,614	860,433
資産の部合計	13,375,227	13,651,189	13,999,790	14,300,057	14,652,017
固定負債	384,556	360,237	337,365	317,712	297,226
流動負債	107,536	78,571	82,477	79,780	74,109
負債の部合計	492,092	438,808	419,842	397,492	371,335
基本金	11,819,402	11,894,466	12,188,206	12,431,894	12,679,131
繰越収支差額	1,063,733	1,317,915	1,391,742	1,470,671	1,601,551
純資産の部合計	12,883,135	13,212,381	13,579,948	13,902,565	14,280,682
負債及び純資産の部合計	13,375,227	13,651,189	13,999,790	14,300,057	14,652,017

②収支計算書

ア)資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度末
学生生徒等納付金収入	543,800	494,484	483,203	453,317	461,602
手数料収入	6,765	6,639	7,079	7,287	5,843
寄付金収入	111,099	33,536	2,417	12,030	7,994
補助金収入	65,260	69,811	89,961	107,087	101,057
資産売却収入	2,100,332	1,532,470	725,319	807,856	1,457,992
付随事業・収益事業収入	40,525	38,672	39,222	41,267	38,701
受取利息・配当金収入	469,881	500,033	467,985	496,915	503,964
雑収入	22,486	28,055	36,253	17,358	64,757
借入金等収入	35,000	20,000	10,000	0	0
前受金収入	94,772	68,040	72,124	68,059	60,755
その他の収入	1,296,327	1,008,805	654,375	826,690	879,955
資金収入調整勘定	△115,572	△115,296	△95,306	△72,862	△107,331
前年度繰越支払資金	176,356	334,602	559,245	177,697	122,967
収入の部合計	4,847,031	4,019,851	3,051,877	2,942,701	3,598,256

支出の部	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
人件費支出	485,189	489,218	487,255	474,707	534,014
教育研究経費支出	231,003	274,300	225,371	272,517	237,888
管理経費支出	52,502	59,394	59,933	68,851	77,627
借入金等利息支出	44	9	9	0	0
借入金等返済支出	35,000	20,000	10,000	0	0
施設関係支出	3,254	559,602	411,035	24,122	36,202
設備関係支出	44,946	7,944	64,799	29,720	26,851

資産運用支出	3,621,187	2,028,116	1,601,816	19,939,868	2,489,477
その他の支出	56,439	30,906	20,882	21,053	48,241
資金支出調整勘定	△17,135	△8,884	△6,920	△11,104	△13,112
翌年度繰越支払資金	334,602	559,246	177,697	122,967	161,068
支出の部合計	4,847,031	4,019,851	3,051,877	20,942,701	3,598,256

イ)活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	794,062	671,196	658,136	638,346	679,955
教育活動資金支出計	768,694	822,912	772,559	816,075	849,529
差引	25,368	△151,716	△114,423	△177,729	△169,574
調整勘定等	45,037	△46,952	△4,749	23,350	△46,697
教育活動資金収支差額	70,405	△198,668	△119,172	△154,379	△216,271
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	681,352	637,216	346,333	442,594	149,063
施設整備等活動資金支出計	422,344	1,332,814	1,058,401	288,732	718,062
差引	259,008	△695,598	△712,068	153,862	△568,999
調整勘定等	0	0	0	0	4,774
施設整備等活動資金収支差額	259,008	△695,598	△712,068	153,862	△564,225
小計（教育活動資金収支差額 施設整備等活動資金収支差額）	329,413	△894,266	△831,240	△517	△780,496
その他活動による資金収支					
その他活動資金収入計	3,144,663	2,423,109	1,490,822	1,661,600	2,692,108
その他活動資金支出計	3,313,609	1,303,282	1,040,757	1,719,136	1,872,899
差引	△168,946	1,119,827	450,065	△57,536	819,209
調整勘定等	△2,221	△918	△373	3,323	△612
その他活動資金収支差額	△171,167	1,118,909	449,692	△54,213	818,597
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	158,246	224,643	△381,548	△54,730	38,101
前年度繰越支払資金	176,356	334,602	559,245	177,697	122,967
翌年度繰越支払資金	334,602	559,245	177,697	122,967	161,068

ウ)事業活動金収支計算書

(単位：千円)

科目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
教育	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	543,800	494,483	483,203	453,317	461,602

活動 収 支	手数料	6,765	6,639	7,079	7,287	5,843
	寄付金	121,899	33,536	3,786	12,030	8,389
	経常費等補助金	65,260	69,811	89,961	107,087	101,057
	付随事業収入	39,486	38,463	39,222	41,267	38,701
	雑収入	22,486	28,055	36,253	37,011	64,757
	教育活動収入計	799,696	670,987	659,504	657,999	680,349
事業活動支出の部						
	人件費	468,756	464,899	464,382	474,707	509,900
	教育研究経費	316,418	359,931	328,397	396,963	364,665
	管理経費	64,639	72,660	73,201	82,580	92,129
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	849,813	897,490	865,980	954,250	966,694
	教育活動収支差額	△50,117	△226,503	△206,476	△296,251	△286,345
教 育 活 動 外 収 支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	469,881	500,033	467,985	496,915	503,964
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	469,881	500,033	467,985	496,915	503,964
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	44	9	10	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
教育活動外支出計	44	9	10	0	0	
	教育活動収支差額	469,837	500,024	467,975	496,915	503,964
特 別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	509,702	79,050	108,152	149,112	236,946
	その他の特別収入	69	0	0	0	399
	特別収入計	509,771	79,050	108,152	149,112	237,345
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	32,044	23,325	2,085	26,428	76,847
その他の特別支出	0	0	0	732	0	
特別支出計	32,044	23,325	2,085	27,160	76,847	
	特別収支差額	477,727	55,725	106,067	121,952	160,498
	基本金組入前当年度収支差額	897,447	329,246	367,566	322,616	378,117
	基本金組入額合計	△383,504	△75,064	△403,719	△243,741	△247,238
	当年度収支差額	513,943	254,182	△36,153	78,875	130,879
	前年度繰越収支差額	549,790	1,063,733	1,317,915	1,391,742	1,470,671

基本金取崩額	0	0	109,980	54	0
翌年度繰越収支差額	1,063,733	1,317,915	1,391,742	1,470,671	1,601,550

(参考)

事業活動収入計	1,779,348	1,250,070	1,235,641	1,304,026	1,421,658
事業活動支出計	881,901	920,824	868,075	981,410	1,043,541

(3) 主な財務比率比較

比率名	算式	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	50.44%	26.34%	29.75%	24.74%	26.60%
	事業活動収入計					
基本金組入後収支比率	事業活動支出	63.18%	78.37%	104.35%	92.56%	88.86%
	事業活動収入計-基本金組入額					
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	42.83%	42.23%	42.86%	39.25%	38.98%
	経常収入					
人件費比率	人件費	36.92%	39.70%	41.19%	41.10%	43.05%
	経常収入					
教育研究経費比率	教育研究経費	24.92%	30.74%	29.13%	34.37%	30.79%
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	5.09%	6.20%	6.49%	7.15%	7.78%
	経常収入					
流動比率	流動資産	1660.63%	1637.70%	1019.76%	1330.68%	1161.04%
	流動負債					
負債比率	総負債	3.82%	3.32%	3.09%	2.86%	2.60%
	純資産					
純資産構成比率	純資産	96.32%	96.79%	97.00%	97.22%	97.47%
	負債+純資産					
基本金比率	基本金	100%	100%	100%	100%	99.96%
	基本金要組入額					
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額	-6.27%	-33.76%	-31.31%	-45.02%	-42.09%
	教育活動資金収入計					

(注)「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

(4) その他

①有価証券の状況

区分	銘柄 数量	帳簿価格 (千円)	時価 (千円)	表示科目	摘要
債券	外国債券 88口	8,336,007	8,719,364	第3号基本金引当特定資産ほか	
	外国債券 6口	497,193	479,659	有価証券	翌年度満期

	円貨債券 1口	50,000	50,380	減価償却引当特定資産	
株式	株式 24銘柄	1,678,011	2,443,452	第3号基本金引当特定資産ほか	
投資信託	なし				
貸付信託	なし				
その他	REIT 6銘柄	443,213	596,369	減価償却引当特定資産ほか	
	外貨MMFほか	165,480	156,678	有価証券ほか	
計		11,169,904	12,445,902		

②借入金の状況

該当なし

③学校債の状況

該当無し

④寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(千円)	摘要
奨学資金ほか	後援会ほか	8,389	

⑤補助金の状況

私立大学等経常費補助金	一般補助	94,240千円(昨年比96%)
	特別補助	6,290千円(昨年比270%)
市町村補助金		527千円

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者との取引状況

該当なし

以上、法人の概要、事業の概要および財務の概要について報告いたしました。これから本学にとってまだまだ厳しい状況が続くことが予想されます。今後も、大学教育研究の充実、経営基盤の確立に向けて、教職員一丸となり、日々努力してまいります。皆様のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。